

【別添2】

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（教務関係）

岐阜県立華陽フロンティア高等学校

学校番号

6401

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を確実に身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 (2) 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 (3) 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。					
2 現状の分析	○生徒の課題を把握し、特別支援対応を考慮しつつ、ソーシャルスキルトレーニング（以下SST）を取り入れ、社会自立につなげている。 ○ユニバーサルデザイン（以下UD）を踏まえた授業展開を行い、選択科目、基礎学習の振り返り場面や習熟度別・少人数指導を行う科目も設定するなど、学習における生徒の学びやすさを高めるために柔軟な指導を積極的に行っている。 ▲学習体験の少ない生徒が多く、短期的に基礎学力の定着に至ることが難しい。					
3 学校の抱える課題	・総合的な探究（学習）の時間にSSTで身に付けた力を授業において効果的に活用する方法の検討と実践。 ・社会自立に必要な基礎学力を定着させるために、学力向上に接続できるような授業展開の検討と実践。					
4 今年度の具体的な重点目標	◇自己の在り方生き方を自ら考える力を育成し、良好な人間関係を構築する力を養う。 ◇興味・関心を高める授業改善を行い、分かる授業を推進し、基礎学力の定着を目指す。					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
自己の在り方・ 生き方を考える 力の育成、良好 な人間関係の構 築、総合的な探 究（学習）の時 間	①授業の中において、SSTを導入し 聞く・話す・協力するスキルの獲 得の検証	①「授業アンケート」の自己評 価の向上、スキル獲得の向上 がみられたか。	① 生徒自己評価 聞くスキル、話すスキル、協力するス キルそれぞれ80%以上であった。	A	○SSTについて、全ての スキルに対して意識して 学校生活を送る姿が見ら れる。 ▲実社会で生き抜く、たく ましさを身に付けさせる 手だてを検討する。	A
	②年次ごとで系統性をもたせ、身に 付けさせたいスキルを設定	②SSTアンケートの結果が、 スキル獲得の向上がみられた か。	②各年次で約5回のSSTを実施した。ス キル獲得に向けた意識の高まりが感 じられた。全学年次でスキル獲得の傾 向が高い値で確認できた。	B		
学習指導	① 興味・関心をもって授業に取り 組むためのUD（ユニバーサルデザ イン）を意識した授業実践	①「授業アンケート」における 生徒の前向きな姿、興味・関 心に関する肯定的評価が、70 %以上であったか。	① 「授業アンケート」による興味・関心 に関する回答結果(88%)	A	○授業アンケートにより、生 徒が授業に対する意識が高 まった。 ▲基礎学力定着のための具 体的方策を検討する。	A
授業改善	① ICT機器を積極的に活用し た授業実践	①授業でプロジェクトなどICT 機器を効果的に利用する。	①全教室にプロジェクト及び電子ペンな どが整備され、すべての教科で日常的 に利用できている。	A	○ICTの活用が一般化した。 ▲全教室に整備されたICT 機器を効果的に用いる授 業展開を検討する。	A
	②教員間の公開授業の実施と公開 授業の参観率の向上	② 職員の公開授業率、参観率 を高める。	③授業公開実施率は100%、公開授業の参 観率約40%	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月26日

12 来年度に向けての改善方策案

・ICT機器の導入により、視覚情報で生徒が理解できるのは、生徒にとってとても有益である。高校での学習経験が社会生活に及ぼす影響は大きい。今後も定時制教育を推進してほしい。

・生徒の授業に対する意識の向上と学習意欲を高めるための方策を検討する。
・基礎学力定着度を高めるための継続可能な具体的方策や授業展開を各教科で研究する。

【別添2】

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（生徒指導関係）

岐阜県立華陽フロンティア高等学校

学校番号

6401

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を確実に身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 (2) 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 (3) 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。
2 現状の分析	○「職員間の連携を図り生徒状況を受容・理解した支援」「共通理解に基づく教育相談体制の充実」 ▲「地域との交流及び本校の実情への理解不足と関わり」「多様な生徒・家庭事情への対応」
3 学校の抱える課題	・様々な問題を抱えた生徒に対して個に応じた指導の充実。 ・高校生としての基本的な規律の習得や、社会の一員としての規範意識の向上。 ・学校行事やボランティア活動を通して、達成感や充実感を味わい、自己肯定感の向上を図る。
4 今年度の具体的な重点目標	◇生徒と職員の信頼関係の構築。 ◇生徒自らが社会的自立を果たせる支援。 ◇社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①カウンセリングマインドを柱に生徒との信頼関係を築く。	①新入生の長欠者を25%未満に減らすことができたか。	①生徒情報交換会を年2回実施。年次会と生徒指導部会を毎週実施し、情報交換を密に行った。	A	○新入生の不登校経験者81名中60名が不登校を克服(74%)。 ○交通事故件発生件数は5件。前年比3件減。 ▲SNSによる情報モラル違反が6件。今後継続指導が必要である。 ○MSリーダーズ活動を年間3回実施した。	A
	②規範意識を向上させ、TPOに応じた行動がとれる生徒を育てる。	②生徒の交通マナー・モラルなど、規範意識向上の指導ができたか。	②外部講師による情報モラル講話、薬物乱用防止講話の実施。全職員による巡回指導の実施。	A		
	③MSリーダーズを中心としたボランティア活動への積極的な参加を勧め、生徒の自己肯定感の向上を目指す。	③MSリーダーズ活動が年間3回以上実施できたか。また、参加者が全校生徒数の15%以上であったか。	③生徒会が中心となって「高校生防災アクション」に参加し、防災意識の向上を図った。	A		
教育相談	①生徒一人一人に応じた教育相談体制の充実を図る。	①「学校評価アンケート」での肯定的評価が、保護者と生徒ともに60%以上であったか。	① 年3回教育相談週間にて懇談を実施。カウンセリングの面談を166名の生徒が実施した。	A	○肯定的評価は生徒が65%、保護者が82%であった。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月26日

<ul style="list-style-type: none"> ・この学校に入学して自信が持てたことがよく伝わってきた。先生方がすごく努力されており、しかも、卒業後の姿をイメージして指導されていることに感心しました。 ・不器用ではあるが、誠実に対応できる生徒に育っている。 	12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・SNSへの安易な投稿が、法律違反を含む、重大な責任を負うことを理解させて、使用について最大限の注意を払うよう継続して指導していく。 ・授業を大切にすることを育て、授業規律を順守する態度を向上させる。 ・すべての生徒に対しての適切な指導方法の実施のために、教員同士の情報交換を密にし、専門家と連携を図りながら対応していく。
---	--

【別添2】

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（進路指導関係）

岐阜県立華陽フロンティア高等学校

学校番号

6401

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を確実に身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 (2) 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 (3) 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。
2 現状の分析	○「職員の共通理解に基づく進路相談体制の充実」「生徒の実態に即した学校体制の確立」「資質向上に繋がる充実した進路行事の実施」 ▲「地域との交流及び学校への理解の不足」「困難な家庭事情への対応」
3 学校の抱える課題	・入学時から卒業後を見据えた進路意識を涵養するため、地域創生キャリアプランナーやハローワークジョブサポーターを活用して、自己の将来像を描くためのキャリアカウンセリングを実施し、自己肯定感を育み、社会に貢献する意欲を養う。
4 今年度の具体的な重点目標	◇生徒が社会的職業的に自立できるようマナーと基礎的な能力を養い、自己の在り方生き方やライフプランを見つめ、主体的に進路選択ができるキャリア教育の実施と豊富な進路情報の配信を進める。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
キャリア支援	①コミュニケーション能力の向上を図り、社会的・職業的自立を支援します。	①面接や履歴書指導など、個々に応じた指導ができたか。 ②「ソーシャルスキルトレーニング」(SST) を計画的に実施できたか。 ③卒業時における進路未決定の生徒を25%未満に減らせたか。	①HR担任による徹底した面接・作文指導 キャリアプランナーやジョブサポーターによる活発な就職面談の実施 ②総合的な学習の時間を利用し、必要なスキル見だし、年次により年2～5回のSSTを実施 ③進学100%(51/51)、就職100%(52/52)、進路未定25%(35/138) 3月末現在	A A B	○粘り強く、きめ細かい指導により、生徒資質向上 ○年次毎に質の高いSSTを実施することができた ○粘り強い指導により進路未定者が25%を達成できた	A
	②様々なキャリア教育関連行事の開催、豊富な進路情報を配信します。	①キャリア教育活動の一環としての充実した進路行事を実施できたか。 ②「学校評価アンケート」における進路指導関連項目において、肯定的評価が70%以上であったか。	①進路情報の発信を積極的に実施 進路ガイダンス、進路講演会など多く進路行事を生徒のニーズに合わせ、効果的に実施 ② ⑥76% ⑦55%が肯定的回答 生徒からの評価については未達成	A B	○キャリア関連行事が進路決定に大きく寄与 ▲更なる1, 2年次生への進路意識の涵養	

II 学校関係者評価 実施年月日：令和3年1月26日

・教育活動の中で、卒業後の生徒の姿をイメージされており、生徒自身が自信を持てるよう、先生方がよく努力されている。
・求人は多いが、定着率は低い。今後も、生徒が理想と現実の違いを理解し、少しでも理想に近づいた所へ進んでいけるとともに、続けられる仕事を見つけられるよう援助していただけるとありがたい。

12 来年度に向けての改善方策案

・入学後早い段階での進路意識涵養させるための工夫
・働くことの意味を理解させるための生徒との対話及び卒業年次会HRTとのきめ細かい連携
・年次毎の発達段階に応じた効果的なソーシャルスキルトレーニングの実施
・進路指導関連行事の精選

